



西高新聞

NAGASAKI NISHI INFORMATION

第294号

令和5年12月22日 発行

編集責任者 初村 一郎

http://www.nagasaki-nishi.ed.jp

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

校長室から

「ハンバーグ」

校長 初村 一郎

(高校を卒業して間もない、大学生になったばかりの女子生徒が書いた手記)

今回は、手記を紹介してみたいと思います。1年の締めくりにふさわしい、ほっこり染みる内容です。ぜひ読んでみてください。3年生はいよいよ正念場！ 年末年始、そして入試本番まで、心の栄養補給にどうぞ！

3月にね、大学の合格者が発表されるやろ。第一希望の大学やったけん、本当に嬉しかった。それから1ヵ月、めっちゃ遊んだ。それまでは、受験勉強があって遊べなかった。1ヵ月があつという間に過ぎた。卒業式もあったし、大学の入学手続きもあったし、一人暮らしを始めるための家探しもした。実家は同じ福岡やけど、ちょっと家からは通えん。一人暮らしもしたかったし、そういう大学を選んだ。でも、帰ろうと思えばすぐに帰れる距離。お父さんも「九州から出たらいいけん」って言ったし。入学する前は本当にワクワクして、ずっと受験勉強のプレッシャーもあって、それから解放たれて、志望校に合格できた。卒業式が終わってすぐ、初めて髪を染め、パーマをかけた。それまでは、校則があつてそんなことできんかったしね。卒業式の次の日、美容院に行った。お母さんも今までは、髪のこと洋服のこともいろいろうさく言ったけど、もう何にも言わなかった。これからは、自分の好きな服を着ることができる。もうすべて自由って感じで、ウキウキしてた。何のサークルに入ろうか、何のアルバイトしようか、アルバイトしてどれくらい1ヵ月で稼げるんだらう。そんなこと考えて、もうワクワクした。毎日が楽しくて、一人暮らしはそれ以上に楽しそうで、早く一人暮らしを始めたいと心から思っていた。親から離れても、そんなに寂しくないだらうって、平気だらうって思ってた。私は長女だったから、親からもみんなからも、親に甘えていない、自立した子どもって思われていた。自分でもそう思ってた。でも、違ったんよ。

明日は私の引越しの日という夜。いつも通りお風呂に入り、テレビを見て、お母さんが晩ご飯作ってくれるの見とった。普段はお父さんも仕事の帰りが遅いんやけど、この日はいつもより早く帰ってきてくれた。たぶん私が実家で最後の食事だと考えてくれたんやと思う。その日のメニューはハンバーグやった。ありふれたメニューだけど、お父さんも、弟も妹も、そして私も大好きなお母さんのハンバーグ。ハンバーグなんてファミレスでも、いつでも食べれるし、ソースだって特別なものではなく、市販のデミグラスソース使ってた。でも、私はお母さんのハンバーグが、なぜか大好きだった。「今日の夕食はハンバーグ」って言われたらすごく嬉しかった。小さい頃、お母さんが台所でお肉を上下にペタンペタンやってたの、ずっと見てた。今でもその嬉しさは私の中に残ってる。

「もう、今日は忙しかったけど、あんたが最後やけんね。ハンバーグ作った。」お母さんがいつもの調子で笑うんよ。妹はその時、高校2年になるちょっと前、1ヵ年して小3の弟に「うちのハンバーグの方がでかいやろ。よかろう。」とか、ちょっとかいだして。弟も負けじと皿を替えたりして。これが毎日の光景だった。私はいつも少し引いて様子を眺めていた。一番でつかいとか言っても、それは妹と弟がそう言うだけで、実際には、そう大差なかった。だってお母さんが同じように作っていたから。

その日もそんなやり取りを醒めて眺めて「ばかやない、この人たち」とか言ったんだけど、そしたら弟が「姉ちゃん、最後やろ」そう言って一番でつかいハンバーグ譲ってくれた。妹も笑ってた。やっと5人、食卓を囲み、みんな揃って、いただきますして食べ始めたんよ。私はやっと食べれると思いながらハンバーグを一口、口に入れた。そしたら、食べれんごとなったんよ。箸が止まってしまつて、ずっと下向いて、止まってたんよ。そしたら、お母さんが「なーん、泣きよとね、あんた」って私の顔を覗きこんだ。私、泣きよった。涙も鼻水も次から次に出てきて、喉が絞まるような感じがして、あれだけ好きだったハンバーグが喉を通らなくて、箸が止まってしまったんよ。家族の前で泣くなんか、恥ずかしいやろ、妹も弟もおるし。最初のうちはどうやって泣き

止もうか、どうやってばれないように泣こうかって考えよった。でも、もうお母さんに気づかれたらしょうがないっていうか、お母さんの「なーん、泣きよと」の一言で、もう涙が一気に溢れてきて、もう完全に箸を置いて、わんわん泣いた。そしたら、お父さんがティッシュを持ってきてくれて、そーっと差し出してくれたんよ。なんか、そしたら余計に涙が溢れて、拭いても拭いても意味ないくらいに溢れて、出続ける涙を拭き続けた。

そしたら、お母さんが「寂しくって、泣いてくれよとね。泣いてくれんって思とった。なんか嬉しかね。ねえ、お父さん。」そう言いながらお母さんも泣きよんよ。お父さんが鼻をずりずりいわせて「そやな」って答えて。弟と妹は最初、何事が起きたんやろって、びっくりしてた。でも、空気を読んでか、読まずか「おいしか」って、わざと大きな声で言って、場を盛り上げようとしてくれた。しばらく泣いたら、落ち着いて「久しぶり、こんな泣いた。すっきりした。お腹空いた。」ってまた食べ始めた。

まさか自分が泣くとは思わなかった。初めて、実は寂しかった自分に気が付いた。再び食べ始めたハンバーグ。おいしいって思ったら、また泣けてきたけど、もうついには泣き続けながら食べ続けた。ぐちゃぐちゃの泣き顔を妹と弟に見られるのは恥ずかしいけん、できるだけずっと下を向いていた。だけど、ちらっと顔を挙げると、弟、妹、お父さんを見ると、そして目を真赤にして笑っているお母さんの顔が見えて、なんか頭の中がいろんなことを思い出した。あの時何を食べたとか、どんな話をしたとか、どんな喧嘩をしたとか、叱られたとか、お母さんのこと、お父さんのこと、妹・弟のこと、明日から一人だって思ったら、また泣けてきた。お母さんのハンバーグすごく美味しいって鼻をずひずひいわせながら食べた。あれだけ泣かんかった私があのハンバーグを一口食べた瞬間に涙が出てきたんよ。すごく不思議やったけど、あの一口が、今までのいろんなことを思い出させてたんだらうと思う。「食」ってすごい力を持っていると思う。「食卓」ってすごいと思う。「家族」ってすごいと思う。

修学旅行を終えて

A班は11月27日(月)から、B班は翌28日(火)から、4泊5日の修学旅行を無事に終え、2学年の生徒たちは、多様な文化や価値観を受け入れて楽しむことの大切さや、英会話力向上への意欲、海外で働くことの面白さなど、さまざまな学びを得ることができました。ハロン湾クルーズで雄大な世界遺産の景色に圧倒されたり、ベトナム高校の生徒たちと英語やスポーツを通して交流したりと、ベトナムならではの体験は得がたいものになったはずです。また、現地の日本人実業家・三木淳氏の講話では、社会貢献の志をもって精力的に活動される姿に大いに刺激を受けていました。ハノイの活気ある街を走るバイクやショッピングモールなどに日本の影響を感じ、将来の夢を膨らませた生徒も多くいました。

【2学年 清家 知子】

～生徒感想より～

○ベトナム修学旅行を通じて、海外で仕事をすることや旅行をすることに興味を持ちました。まず、日本とは大きく異なる文化や料理に触れたことで、自分が日常で当たり前に行っていることが狭い価値観であることが分かり、どの文化も尊重する姿勢が現在の世界で必要だと思いました。

○今回はJTBの方やガイドさんが連れて行ってくれたが、将来は自分で計画を立てて海外旅行に挑戦してみたいと思う。自分の英語力を高めようと思う機会にもなり、その地域の人々の考え方や文化を肌で感じる事が出来るので、多様な視点を持てるようになると思った。

○学校交流ではみんな積極的に明るくて驚きました。言葉が通じにくてもこんなに仲良くなれるんだと嬉しく感じました。現地の人もみんな優しく日本人を受け入れてくれました。海外に実際に行かないと感じられない特別な感情だと思うので、思い出と一緒にずっと覚えておきたいです。

西高イルミネーション点灯18日(月)・受験横断幕作成 12日(火)

毎年恒例の「西高イルミネーション」の点灯を18日(月)に開始しました。この取り組みは、受験を直前に控えた3年生の激励と、冬の寒さの中、部活動に励む1・2年生を応援することを目的に行われています。今年も生徒会役員・ボランティア委員・水球部・女子バスケットボール部の生徒たちが協力して、試行錯誤しながら美しいイルミネーションを完成させました。また、今年も本校OBの田中電機様のご協力をいただき、配線の調整や、雨対策のビニールの取り付けなどを行っていただきました。3年生や部活動生はもちろん、本校に来校される方々にとって、少しでも心温まるイルミネーションになればと思っています。点灯は来年1月12日まで行います。また、受験に向かう3年生を激励する横断幕を1・2年生が作成し、12日(火)に披露しました。書道部の生徒の揮毫による「博学偉才」の4文字とともに書かれた、後輩たちの熱いメッセージを励みに、自信を持って受験に立ち向かってくれることを期待しています。

【自律活動部 岩崎 正吾】

令和5年度全九州高等学校総合文化祭【大分大会】

<放送部>

8日(金)、9日(土)、10日(日)の3日間にわたって九州高校放送コンテスト大分大会が、別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)で行われました。本校からはラジオ番組部門に文化祭茶番劇から教訓を得る『委員長事変』、テレビ部門に好きなことを追う高校生の再起を描いたドラマ『再跳(リバウンド)』を出品しました。1日目に受付、2日目に各部門準決勝、3日目に決勝が行われ、テレビ部門で『再跳』が見事3位を受賞しました。九州・沖縄8県の代表が競うレベルの高い大会で発表・交流できたことは、貴重な体験になったと思います。今回学んだことを普段の放送活動や今後の大会に生かして、更なる向上を期待します。



【放送部顧問 樋渡 彩音】

<写真部>

12月8日(金)から3日間の日程で九州総文祭大分大会に参加してきました。この大会は10月に行われた長崎県総文祭で選ばれた上位者が参加する大会です。本校写真部の力作の中から、2年4組谷口夏輝さんの作品が選ばれました。作品名は「灯(あかり)」、ホテルの光をモチーフにした幻想的な作品です。

九州大会では、現地でも風景や街並みを撮影し、その講評が行われます。今回は温泉地別府が会場でしたので、風情ある写真を撮ることができました。また、交流会では、他県の生徒と協働して、持ち寄った写真でストーリーを作り、グループごとに発表しました。楽しみながらも写真を通して互いを高めあう有意義な時間となりました。今後も良い作品が撮れるよう、今大会での経験を糧に、より一層感性に磨きをかけていってほしいと考えています。



【写真部顧問 廣村 淳】

<書道部>

全九州高等学校総合文化祭書道部門に1年平川由彩さんが県代表として参加しました。大会2日目に、その場で出された漢詩等を2時間で創作するという揮毫大会が実施され、日頃から取り組んでいる「椿遂良(ちよすいりょう)」の書法で挑みました。縦約2.4m×横約0.6mの紙に五言律詩を2首書き、明るく清らかな作品に仕上がし、優秀賞受賞となりました。支えてくださった方々、ありがとうございました。

【書道部顧問 嶋田 弘子】

<美術部>

12月8日(金)～10日(日)大分市で行われた第7回全九州高等学校総合文化祭美術・工芸部門に、1年熊谷洗乃さんが参加しました。熊谷さんは長崎の街並みを俯瞰して描いた『十九階の展望』というタイトルの絵画を出展しました。8日(金)の交流会では班になって各出展者が製作した作品を鑑賞しあう企画がありましたが、熊谷さんの作品に対しては「私には描けない」とか「ぜひ真似してみたい」などの賞賛の声があがりました。9日(土)は班での屏風製作、10日(日)は講評会と講演会があり、充実した3日間になったと思います。今回の経験を今後の創作活動に生かしてくれるものと期待しています。



【美術部顧問 植木 正明】

オーストラリアからの学生受け入れ

11日(月)から22日(金)までの2週間、オーストラリアのManly Selective CampusからJoseph Hunter君が訪問しています。ホストブラザーが所属しているクラスの授業や部活動を中心に日本の学校生活を体験しています。英語の授業では一緒に活動したり、体育では長距離走に挑戦したりしました。休み時間には本校生徒が日本語を教える様子も見受けられました。他国を1人で訪問するHunter君の行動力に多くの生徒が刺激を受けたことと思います。以下はHunter君からのメッセージです。

【2学年英語科 佐々木 愛】

Going homestay is once in a lifetime opportunity so I came to Japan this time. I will never get the chance to go on homestay again. During my stay in Nagasaki, I want to try a lot of Japanese food and experience things that I cannot do in Australia. Thank you to everyone at Nagasaki Nishi High School for doing very kind and welcoming. Nagasaki has been very fun!!!



学年だより

第1学年 — 「将来を考える」 —

2023年が終わろうとしています。今年は78回生との出会いに恵まれた素晴らしい一年でした。皆様にとってはいかにだったでしょうか。

さて、先日の三者面談では、年末のお忙しいところ、ご来校いただきありがとうございました。夏季に引き続き希望制での実施となりましたが、178名(63.7%)の保護者の方々とお話しをさせていただきました。今回の面談では、2年次以降の文理選択の確認をはじめ、ここまでの学習成績の推移などについて情報を共有しました。ここまでの状況を踏まえつつ、2024年がさらに飛躍の一年になることを願っています。また今回はご都合の付かなかった保護者の皆様におかれましてはなにか気になることがありましたらいつでも遠慮なく本校までご連絡ください。

78回生との邂逅が今後ますます実り大きなものになっていくことを願っています。どうぞ来年もよろしくお願いいたします。

【第1学年主任 石橋 可巳】

第2学年 — 一年の計は元旦にあり —

77回生の2学期は、多くのイベントがありました。運動会と西高祭の二大行事、部活動の各種大会やコンテスト。そして、高校時代最大のイベントであるハノイへの修学旅行。これらの行事を通して、また一回り大きく成長できたのではないかと感じています。

学習面では、11月進研実力において、夏以降の強化ポイントに挙げていた理科と地歴に関して、取組の成果が見られた生徒もいました。日々コツコツと努力を重ねれば、必ず成果として現れます。たとえ途中で実感が得られなくても、前に進んでいく勇気と忍耐力があれば、また道は拓けます。

3学期は2年生の締めくくりの時期であると同時に、「3年生0学期」とも言われます。その3学期を充実させるためにも、この冬の過ごし方がカギになります。年末に提出してもらうことになっている「第一志望宣言」は、新たな気持ちで新年を迎えようための取り組みです。夢を実現するためにも、年始に1年間の計画を立てて欲しいと思います。

高校生活も残り1年余りです。学習のみならず、部活動に対しても、そして学校行事に対しても、一日一日を全力で取り組んでもらいたいと思います。77回生は、まだまだ成長します。「自分の将来のため」に全力で臨み、そして「世のため人のため」に“チーム77回生”として挑戦していきたいと思います。引き続き、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

《ベトナム修学旅行の様子》

【第2学年主任 宗田 将平】



第3学年 — いよいよ共通テスト本番 —

いよいよ共通テストが目前に迫ってきました。年明けすぐに本番を迎えることになります。冬季休業中には、課外授業や共通テストに向けたプレテストが行われるなど、気が抜けない年末年始となります。規則正しい生活を心がけ、無理をして体調を崩すことがないように、この時期を過ごしてください。そして、万全の体制で本番に臨むことができるよう準備しましょう。

三者面談においては、年末のお忙しい中、ご来校いただきありがとうございました。面談を行うにあたり、学年団および教科担当で11月22日(水)・24日(金)に今年度3回目となる進路検討会を実施しました。検討会では、生徒一人ひとりの志望状況・成績の推移や、教科担当が個別に評価をする2次試験科目における対応力を確認し、今後の進路・学習指導における方針を共有したところです。ご家庭でも共通テスト後の出願校決定までの流れや、受験スケジュールについてご確認をお願いします。

年内も余日わずかとなりましたが、今年もたいへんお世話になりました。来年もよろしくお願いいたします。よいお年をお迎えください。

【第3学年主任 月川 希】